

学校質問紙からみえてくる東員町の小中学校（令和3年度）



東員町



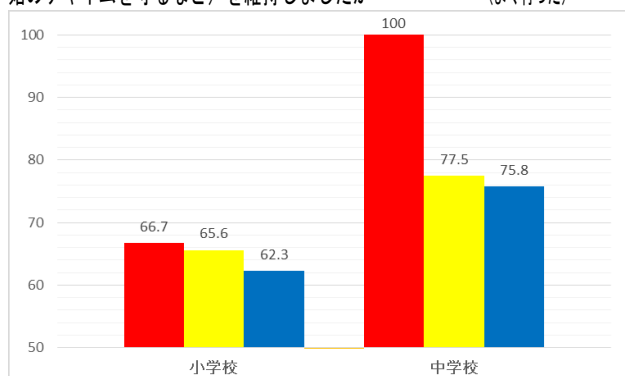
三重県



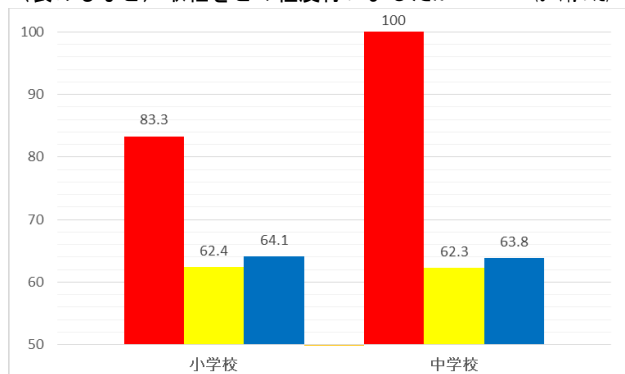
全国

授業学習活動に関すること

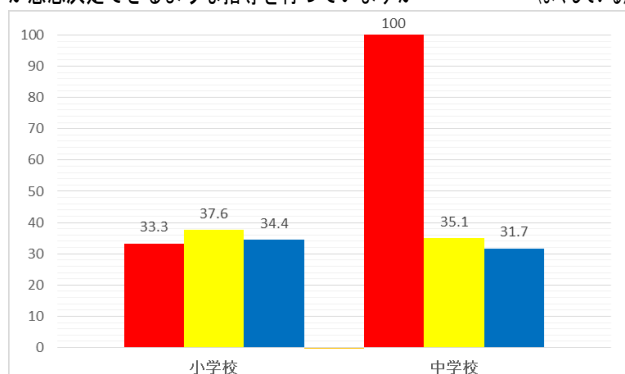
調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか（よく行った）



調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか（よく行った）

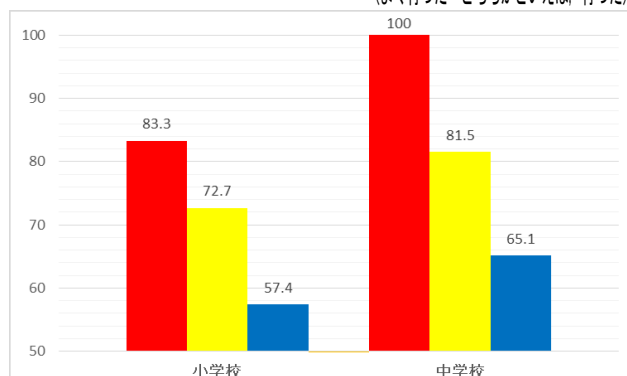


調査対象学年の児童（生徒）に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童（生徒）が意思決定できるような指導を行っていますか（よくしている）

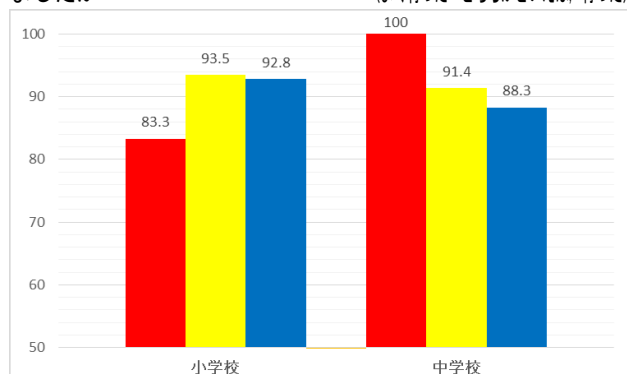


職員の研修等に関すること

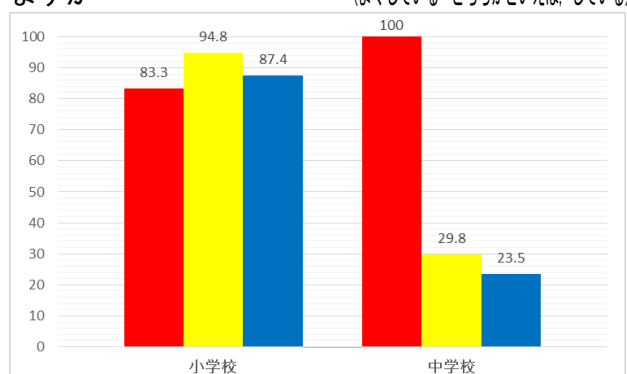
前年度までに、近隣の小学校（中学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか（よく行った・どちらかといえば、行った）



調査対象学年児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか（よく行った・どちらかといえば、行った）



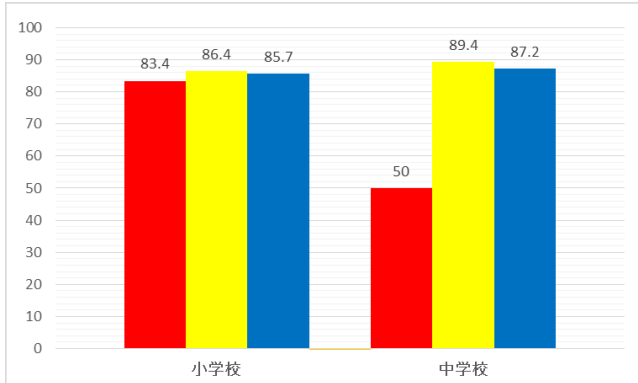
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか（よくしている・どちらかといえば、している）



保護者や地域との連携に関すること

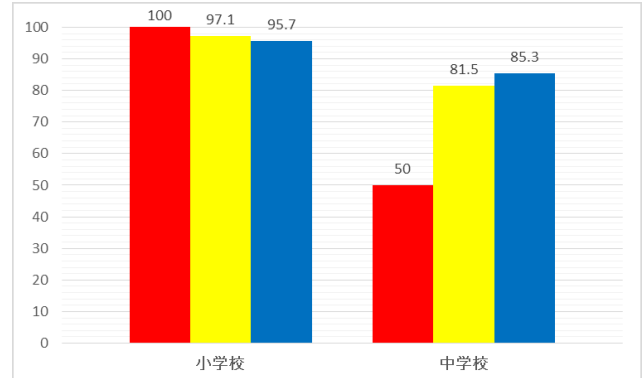
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか

(よくしている・どちらかといえば、している)



保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか

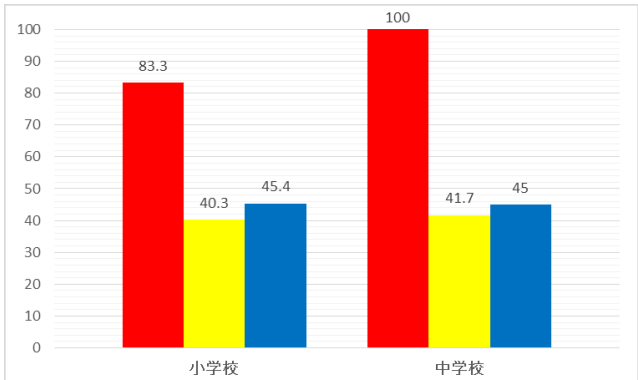
(よく参加している・参加している)



外国語教育（英語）に関すること

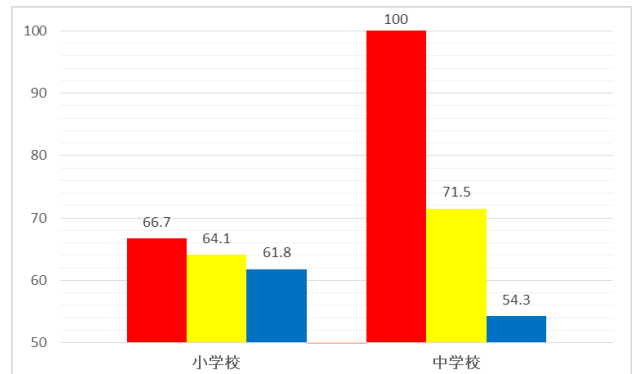
調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか

(よく行った・どちらかといえば、行った)



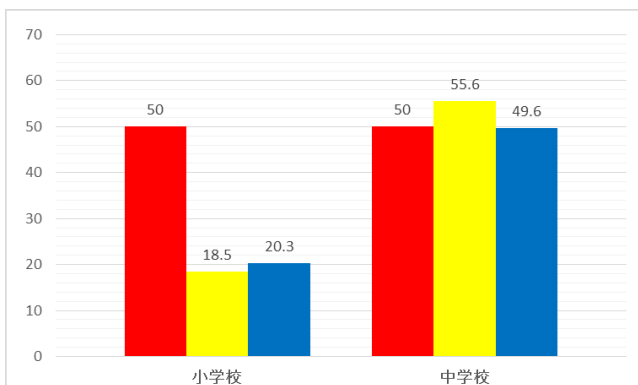
学校長に関すること

校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか。(よくしている)



キャリア教育に関すること

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。(よく行った)



東員町の小中学校の授業では、コロナウィルス感染症拡大防止対策をとった上で、各校の学習規律にもとづいて落ち着いて学習できる環境を整えています。また、互いに語り合い聴き合う学び合いの授業を通して、互いの良さを認め合い高め合える授業づくりに取り組んでいます。以前と比較すると、小学校ではコロナウィルス感染症拡大防止対策をとりながらの話合いでは、意思決定のための十分な指導機会を確保することができなかつたため、中学校との差が大きくなつたと分析しています。

教師は子どもたち一人一人の良さや可能性を見つけ、褒め励まし支えながら、個々の考えや意思を尊重した「自己肯定感」「自己有能感」を高める指導・支援を行っています。

職員の研修では、各校独自の研修に加えて、小中合同での研修を行い、小中が連携して主体的で実践的な授業研修を進めています。特に、児童・生徒間の対話を大切にした言語活動を軸にした研修（読解力の向上）を行っています。

保護者や地域との連携では、多くの方の協力や支援を受けて、学校運営・教育活動が進められています。そして、保護者や地域の方の声を、学校評議員や学校ボランティアとの会合、学校評価アンケート等を通じて把握し、学校運営や教育活動の改善に努めています。また、学校の取組や子どもの様子について、保護者や地域に積極的に発信し、開かれた学校づくりを進めています。

中学校では、コロナウィルス感染症拡大防止のため、今まで連携できていた活動が制限され実施できなかつたため、全国・県との差が生じたと分析しています。

外国語教育では、他教科の授業と同様に、対話を通して「思考力、判断力、表現力」を育む授業が行われています。また東員町では、小学校1名・中学校2名（各中学校1名）のALT（外国語指導助手）を任用し、特に子どもたちの会話力とコミュニケーション力の向上を目指し、英語科教員とALTが連携した授業が展開されています。小学生の段階から、英語科教員が授業をすることがで、言語活動が充実していることが結果として表れています。

学校長のリーダーシップでは、授業研究に限らず、日々の組織的、継続的な研修を行っていることが表れています。以前と比較すると、小学校において、全国値との差が小さくなっているのは、コロナウィルス感染症拡大防止のため、年度当初に計画していた研修などが十分にできなかったためであると分析しています。

キャリア教育では、16年一貫教育プランに基づき、将来就きたい仕事や夢について考える機会を小学校段階から設定しています。将来就きたい仕事や夢を考えることで、児童生徒の「やる気スイッチ」がON状態になり、より意欲的に学習へ向かうことにつながります。全国や県と比較して、小学校で学ぶ機会がある点が、「児童生徒質問紙」の「自己有能感」の値に表れています。